

(「似非でない保守勢の街頭演説とか政治解説とか」
⇒
<https://docs.google.com/document/d/13Fz-meZtZ4Jx-RqKXrWku6OW57ElrPGf/edit?usp=sharing&oid=101459707451073275716&rtpof=true&sd=true>
/ <https://bit.ly/3INEuPF>)

似非でない保守勢の街頭演説とか政治解説とか

(2022/02/05 伊藤貴氏)

チャンネル名: 新日本文化チャンネル桜
タイトル: 【伊藤貴の真剣な雑談】第4回「アメリカ人も呆れた、属国主義で核武装議論から逃げてきた日本の保守政治家達」[桜R4/2/5]
⇒
<https://www.youtube.com/watch?v=OCIIWXHAuW8&list=PLApqqGZRUE5olXNXe0k4L7L2sbdLNuFKT&index=8>
/ <https://bit.ly/3szTCCQ>

(Altered States: The United States and Japan since the Occupation [1997]
by Michael Schaller [1947-]
⇒ <https://www.amazon.co.jp/dp/0195069161/>
/ <https://amzn.to/3HHZrVn>
(⇒
<https://vdoc.pub/download/altered-states-the-united-states-and-japan-since-the-occupation-53iaijaf0ju0>
/ <https://bit.ly/3l3n8HX>))

[YouTube動画全体の内容というのは、伊藤氏による「Altered States」のレビューに近い。
以下の引用は、特に、主として日本政治のプロレス構造についてのもの。
(正確には、伊藤氏の表現では、プロレス政治とはいわず、
「売国保守の自民党と、売国左翼の社会党が、表面的に対立するお芝居」)]

伊藤氏が特に関心を引かれたのは、
「Altered States」にある内容のうち、日本統治・日本政治に関して次のような事実なり姿勢なりがあったこと。
①意図的な属国主義
②CIAの対日工作
③ニクソンと日本核武装論

「[\(0:19:59~\)](#)
《②CIAの対日工作の要約》
それから、2つ目が、この本で面白かったのは、CIAがどれぐらい日本にお金ばらまいてるか。
で、CIAからそういう秘密資金もしくは賄賂を受け取ってきたのは、
自民党だけではなくて、日本の社会党も受け取ってた。
で、社会党だけじゃなくて、社会党から分かれて、民主……[民社党](#)ってのが、昔できたんですけども、
その民社党の議員も、ほとんどみんなCIAからお金もらってた。
それから、日本の保守メディア、保守系の新聞、それから保守系の雑誌がCIAからお金取ってるわけですね。
そうすると、日本の言論人、政治家はみんな大喜びで、アメリカから、CIAからお金取ってるわけですね。
で、そのことがちゃんと書いてあるんですね。

[\(~0:20:39\)](#)
……
[\(0:30:52~\)](#)
《②CIAの対日工作の解説》
それからね、もう一つ面白いのは、
2053年[\(1953年\)](#)に[吉田茂](#)[\(1878-1967\)](#)は、また、[池田](#)[\(1899-1965\)](#)と、[宮沢](#)[\(1919-2007\)](#)をワシントンに派遣してるんですね。
で、こんときに出した吉田茂の指令が、とにかく日本の再軍備の要求だけは、絶対に受け入れるなど。
日本国民は、再軍備に全く興味がないからだ。
で、しかもねえ、国務省の資料によると、
"It is our god-given luck that the constitution bans armament."
神様からいただいた幸運ね、god-given luck。
もしアメリカが文句を言うんだったら、この憲法を…占領軍憲法を盾にアメリカに言い返せばいいと。
それで、その次に言ったのが、面白くて、これ、53年なんですけども、
日本の政治家で憲法を変えたがっている政治家は、大馬鹿者だと。

Altered States, p. 67, l. 3 from the bottom - p. 68, l. 9
Yoshida sent four close aides to Washington to negotiate a final MSA agreement . They included former finance minister Ikeda Hayato, Miyazawa Kiichi, Aichi Kiichi, and Suzuki Gengo,

all with backgrounds in finance rather than national security.
They were instructed to make as few concessions as possible.
As Yoshida put it to Miyazawa,
Japan could "never pull off the so-called rearmament for the time being,
nor is there any interest in it among the people."
Rearmament would come some day "naturally if our livelihood recovers."
At the risk of sounding "selfish,"
Yoshida preferred to "let the Americans handle [our security] until then."
He considered it "**our god-given luck that the constitution bans arms.**
If the Americans complain, the constitution gives us **adequate cover.**
The politicians who want to amend it are oafs."

The Japanese brought many nonmilitary issues to the MSA talks,
including proposals to ease trade restrictions with China,
requests that Washington help Tokyo improve its relations with Southeast Asia,
and provide increased economic assistance.
The chief American delegate,
Assistant Secretary of State for Far Eastern Affairs Walter Robertson,
whom an aid described as "an extraordinarily affable
but virulently anti-Mao Virginia banker," disputed all these points. ¹²
12. FRUS 1952-54, XIV, 1489-90;
Johnson, *The Right Hand of Power*, 161;
Welfield, *Empire in Eclipse*, 101;
Miyazawa quoted Yoshida's instruction in his 1956 memoir,
Tokyo-Washington no mistsudan
(Secret Talks between Tokyo and Washington) (Tokyo, 1956),
cited in Kataoka Tetsuya,
The Price of a Constitution: The Origins of Japan's Postwar Politics
(New York, 1991), 118.

でねえ、当時、吉田茂は……、保守党の内部で、
[鳩山一郎](#)(1883-1959, 1951年にフリーメイソン入会)と、[重光葵](#)(1887-1957) と、[石橋湛山](#)(1884-1973)と、
すぐく対立してたんですよ。
で、この三人とも、鳩山も、重光も、あの、石橋も、
こんな占領軍憲法は、最初から、もう、あの、レジティマシー(legitimacy)がないと、
[言論の自由](#)もないし、政治的な、…政治活動の自由もないところで、
米軍が勝手に決めた、あの、憲法なんてのは、最初から、レジティマシー、あの、正統性がないんですよ。
正統性っていうのは、要するに、オーソドクシー(orthodoxy)っていう意味での正統性と、
それから、ジャス、…ジャスティファイアブル(justifiable)、ジャスティファイ(justify)できるか否かと。
正当化できるか、いや、あの、正当防衛の正当ですね。
ジャスティファイできるか否かの、…っていう意味で、
両方から、あの、オーソドクシーもないし、それから、ジャスティファイできるものでもないと。
だから、最初から、あの、占領軍憲法っていうのは、いかさまで、現在でもレジティマシーがないんです。
ところが、吉田茂は、もう、この憲法だけは、絶対守れと、…占領軍憲法ね。
そういう日本に対して、1954年に、駐日大使だった[ジョン・アリソン](#)(1905-1978)という人が、
非常に面白いことを言って…。
このジョン・アリソンが国務省に提出した報告書の中で、こういう議論ばかりしてて、
自分の国の憲法とか、あの、国防政策から逃げている、…逃げ続けている日本人っていうのは、
結局、善と悪の判断がないんだろうと。
で、何が良くて何が悪いかということさえ、あの、日本人は議論できないと。
日本人の行動方針というのは、その場の状況によってどんどん変わると。
で、その場の状況によって、損か得かという非常に短期的な…、あの、判断だけで動いてて、
で、何が本来望ましい政策で、何が本来望ましくない政策であるかということを議論する能力が
日本人にはないと。
これね、そういうふうに、ジョン・アリソン大使は書いてるんですね。
彼に言わせれば、日本の保守、あの、保守派の政治家ね、…は、
自分たちが、自由世界に所属しているか否かということは、興味がなくて、
自分たちの目先の利益を確保すること以外は、何も考えてないと。
で、もっと面白いのが、1954、…同じ年に、
日本に駐在している[General Carter Magruder](#) (1900-1988)と、…マグルーダー大将と、
chief of staff of the Far Eastern Commandっていうから、
ええと、極東軍の、ああ、最高司令官だったんでしょう。
…の、で、この、マグルーダー大将が、いいですか、
吉田の考えてることは、日本が金儲けすることだけだと。
で、"Yoshida's scheme to make "Japan rich ... would only weaken the moral fiber of Japanese
people."と。
日本語にしますと、吉田の日本人には金儲けだけさせてりゃいいという企みね、スキーム、…考えは、
日本人の道徳的な能力をどんどんどんどん低下させるだけだと、…日本人を墮落させるだけだと。
そういうことをやってるんだったら、マグルーダー将軍によれば、ね、…大将によれば、
日本人は、二度と再軍備できない国民になるだろうと。
要するに、どんなにお金儲けが、あの、…に成功しても、金儲けばかり追求することによって、
日本人のmoral fiberと、…道徳的な資質が、どんどんどんどん低下していくから、
日本は二度と、あの、独立した国防能力を持つ国になれないだろうと。

to reduce by 10 percent Tokyo's contribution to the military buildup.
Coming so soon after making the commitment,
this cut so angered John Allison that he fired off messages to Washington
that condemned Japan as neither an ally nor partner
"but a nation which for the time being is forced by circumstances
to cooperate with the United States
but which intends while doing so,
to wring out of this relationship every possible advantage at the
minimal cost."
Despite its modern veneer,
he sneered, the Japanese possessed "no abstract sense of right or wrong
—their guide to conduct is situational and specific rather than general and ideal." 18
18. FRUS 1952-54, XIV, 1714-15; 1720-23.

Defense officials expressed even greater displeasure.
General Carter B. Magruder, chief of staff of the Far Eastern Command in Tokyo,
accused Japan of caring more about placating the Soviet Union
than resisting communism.
Magruder charged that
Yoshida's scheme to make "Japan rich
before we make her militarily strong
would only weaken the moral fiber of her people"
and postpone rearmament indefinitely.
Unless Japan mustered the will to rearm,
he considered it a "waste of money" to extend further aid.

Magruder proposed a last-ditch effort to "kindle ... a more aggressive spirit."
Washington might "actively seek the replacement of the present Japanese government,"
reduce aid to force Japan to defend its interests,
or urge "Japan to seek a position of leadership in Northeast Asia."
To foster a more militant outlook, he proposed that
the United States indicate
it "would view favorably the re-establishment of the Japanese Empire
under a moderate Japanese Government." 19
19. FRUS 1952-54, XIV, 1731-32.

After Allison blew off steam,
he decided that
for the time being
the goals of political stability and economic recovery
"should be given absolute and urgent priority in our programs."
Unfortunately, Japan held "no basic convictions
for or against the free world or communism" and
Tokyo pursued any course that would "advance Japanese interests."

The task for the United States was to convince Japanese leaders that
"they need us at least as much if not more than we need them."
Tokyo had to realize that
temporary setbacks in Southeast Asia did not alter the basic fact that
"ours is the winning side." 20

20. FRUS 1952-54, XIV, 1714-15;
on reflection, Allison told Dulles that
since the United States neither could nor should abandon Japan,
future economic and military assistance
should concentrate on the gradual development of self-defense capacity,
ibid., 1717-19;
the ambassador and his staff
submitted a lengthy "reappraisal" of policy in October arguing that
for the short run
no Japanese government would promote the kind of rapid
rearmament
Washington favored.

See dispatch 611.94/10-2554, RG 59.

要するに、吉田茂のやってること、…要するに、属国主義ですね。
アメリカに永遠に占領してもらえればいいんだと。
で、永遠に占領して、70年経っても、80年経っても、アメリカ軍に占領してもらえればいいと。
100年経っても、アメリカに占領して守ってもらえればいいと。
そういうことやってると、もう、日本人が完全に道徳心を失ってしまうと。
で、そんな国が二度と、まともな国防政策を持てるわけがないと。
まあ、そう言ってるわけですね。
で、僕は、それを読んで、非常にうれしかったわけですね。
なんでかと言うと、いつも僕がそう思ってることを、ね、65年前かな、
マグルーダー大將が、ちゃんと予言してくれてるわけですよ。
こういう金儲けのことばかり考えてる日本人は、どんどんどんどん駄目になると。
ジョン・アリソン大使も、日本人は何が良いことで、何が悪いことかという判断さえ、もうできなくなってる
と。

で、目の利益を確保することだけに、一生懸命になってると。
そのことをちょっと裏打ちするんですけども、
あの、1955年以降は、野党が常に、3分の1もしくはそれ以上の議席を持ってたから、
自民党は、憲法改正ができなかったわけですね。
で、吉田茂にしても、池田にしても、宮沢にしても、それでいいんだと。
なん、...何でかっていうと、彼らは要するに、
吉田も、宮沢にしても、あの、池田にしても、鈴木ですか、それから、竹下にしても、
憲法改正なんか、口では、ね、自民党は自主憲法を作るって言ってますけど、
本音レベルでは、やりたくないんですよ。
吉田はもう、憲法改正に大反対だったしね。
憲法は改正しなきゃいけないとかね、国防能力を持たないと、...持たなきゃいけないって、
吉田は、回想録には書いてるんだけども、
アメリカの国務相官僚とか、CIAの官僚の前では、憲法改正なんか全くやる必要ないと、...このままでいいんだと。
日本は国防能力なんか持つ必要ないんだと。
本音をしゃべってるわけです。
で、要するに、日本の保守派の前に出ると、憲法改正する必要があると言ってるわけですけどね。
1994年のニューヨーク・タイムスのインタビューで、
総理大臣やった竹下登が自民党、...特に、あ、吉田茂系統の議員は、
社会党とグルになって憲法改正を阻止してきたと。
竹下登元首相によれば、自民党が社会党と対立して見せることは、非常に便利だったと。
自民党は、社会党が憲法改正に反対しているということを利用して、
アメリカが日本に、あの、国防予算を増やせという要求を、社会党のせいにして、
...要するに、社会党が反対してるからできませんと言って、言い訳にして、国防能力を持つことから逃げてきたと。
で、憲法改正することから逃げてきたと。
それで、このニューヨーク・タイムスの、あの、記事によると、
要するに、竹下は、cunning diplomacyだと、...狡猾な外交であると言って、まあ、喜んでるわけです。

Altered States, p. 119, l. 16 - p. 120, l. 19
In fact, Japanese domestic politics proved less malleable than Dulles anticipated.
In October 1955,
the left and right Socialist factions merged (they split again in 1959).
Adopting a more nationalistic stance than many conservatives,
the Japan Socialist Party (JSP) demanded Soviet return of all disputed islands,
including the Kuriles and southern Sakhalin.

In November, the main conservative groups merged
to form the Liberal Democratic Party (LDP),
a move celebrated by American diplomats.
The party destined to govern Japan for nearly four decades
was less a cohesive political organization
than an amalgam of interest groups
and personalities unified by opposition to the Socialists,
financed by big business,
and committed to the alliance with the United States.
Party barons riven by personal feuds and loyalties
divided along multiple fault lines on the questions of constitutional revision,
the Soviet treaty, China policy, and revising the security treaty.

At any given time after 1955,
the party leadership consisted of eight or more factions,
each linked to an individual and his followers in the Diet.
Liberal Democratic rules specified that
every two years
LDP Diet members and a small number of party officials from the prefectures
were to elect a party president.
Given LDP control of parliament, he became prime minister.
Japanese voters had no direct input into the process;
individual LDP Diet members had only slightly more influence.
In theory, each Diet member cast a single, secret ballot.
In practice, faction leaders bargained among themselves
to select a party president and generally controlled the votes of their members.

As part of the process,
the party leader/prime minister
(Hatoyama was chosen as the first LDP president in 1956)
appointed a cabinet of faction leaders or their designees.
This limited a prime minister's authority
and led most to avoid contentious issues.
Both by default and by tradition,
the permanent bureaucracy exercised a large measure of control
over domestic and foreign policies,
further insulating the government from voter input.
The Japanese citizen, one scholar remarked,
viewed political parties

as "the bauble of the Dietman,
not an integral party of the democratic system
in which he must participate fully." ¹³

13. Nathaniel Thayer, *How the Conservatives Rule Japan* (Princeton, N.J., 1969), 317.

This distribution of political power, often called the "1955 System,"
confirmed a conservative monopoly of national power and
marginalized the Socialists and other opposition groups.
However, the ability of opposition parties
to hold onto about one-third of the seats in the Diet
effectively blocked attempts
to amend the "no war" clause of the constitution
or repudiate some of the Occupation's liberal legacies.

In fact, some elements within the LDP (such as the Yoshida faction)
tacitly cooperated with the Socialists
to blunt pressure from Washington to rearm.

Liberal Democratic elder Takeshita Noboru, who served as prime minister in 1988-89,
explained this tactic.

In describing the LDP-Socialist coalition government that ruled briefly in 1995,
Takeshita compared it to the tacit cooperation of the mid-1950s.

Throughout the cold war, he explained,
the Liberal Democrats had used the possibility of criticism by the Socialists
to deflect demands by the United States
to speed rearmament or play amore active role internationally.

"In that sense there was a sort of burden sharing between us,"
Takeshita observed,
an arrangement he described as "cunning diplomacy." ¹⁴

14. Takeshita quoted in New York Times, Oct. 14, 1994.

Yoshida had articulated a similar view during the negotiation of the peace treaty
(when he encouraged Socialist demonstrations at the time Dulles visited Tokyo)
and in 1954 when he answered demands that
Japan rearm faster to receive U.S. aid
by pointing to Article IX of the constitution and the threat of a left-wing
backlash.

で、要するにね、中曽根首相も、そういうふうに言ってたわけでしょ。
で、たぶん小泉も言ってただろうし、安倍首相もそういうふうに言ってたわけでしょ。
でも、一回も本気にならなかったでしょ。
それから、もちろん自主防衛なんか、最初からやるつもりないんですよ。
で、自衛隊に、もちろん自衛能力を持たせるつもりはないし。

(0:38:47)

で、も...もう一回繰り返しますけれども、
吉田茂から現在の岸田政権まで自民党の本質っていうのは、属国主義なんです。
一回戦争に負けたから、
70年経っても、80年経っても、90年経っても、日本はアメリカの属国でいいんだと、
それから、日本は、自主防衛する必要がないから、
周りの国が何百発、何千発水爆弾頭を持とうと、我々気にしなくていいんだと、
な、なぜならば、日本は、アメリカの属国だから、それに安住していればいいんだから、
アメリカが何とかしてくれるだろうと。
で、先ほど言いましたように、30分以内に、.....北朝鮮も中国もロシアも、30分以内に、
アメリカ国民の五千万人か一億人を殺せる能力を持ってるわけでしょ。
それでも、自民党は、いいんだいいんだと、
我々はもう、ま、.....戦争に負けたんだから、あの、自主防衛しなくていいんだと。
占領軍にやってもらえばいいんだと、
これが、吉田から岸田まで、76年間日本が続けてきた政策なわけですね。
で、そのことが、露骨に、あの、この本の資料の中に書いてあるわけですね。

(0:39:57)

で、あと、僕がちょっと、まあ面白かった。
これは、みなさんご存知だとは思いますが、
1957年に当時の大蔵大臣だった佐藤栄作(1901-1975)が、
あの、CIAと国務省に自民党の選挙資金・政治資金をくれと、
で、その時から、ずっと、あの、1970年代、たぶん中ごろまでだと思いますけども、
もしかしたら今でも続いてるかもしれないですけども、
CIAがああ、自民党に政治資金を毎年与えてきたと。
当時、50年代の末から60年代の初めに、CIAで、
あの、東京に駐在してた、あの、アルフレッド・ウルマー(Alfred C. Ulmer Jr., 1916-2000)っていうCIAのエージェント(正確には、エージェントというよりも、オフィサー(職員)(?))は、
"We financed the Liberal Democratic Party."と。
要するに、自民党のファイナンスを請け負っていたと。

Altered States, p. 136, I. 15-39

The president also authorized the CIA to initiate a covert program in Japan.
As Alfred C. Ulmer, Jr., a CIA officer
who controlled many operations in Japan from 1955 to 1958
put it,
"we financed" the LDP.

The CIA "depended on the LDP for information" and used secret payments to recruit allies within the party.

By the early 1960s, annual payments of between \$2 and \$10 million to the party and individual politicians had become "so established and so routine," reported [Assistant Secretary of State](#) for Intelligence [Roger Hillsman](#) (1919-2014), that they were a normal part of bilateral relations.

The money supplied by the CIA was used in a variety of ways, beginning with the May 1958 campaign for the lower house seats in the Diet. State Department and intelligence analysts feared that the Socialists might make significant inroads and that Kishi's "pro-American" faction would fare poorly compared to their competitors within the LDP. Campaign funds were channeled through a select group of LDP party leaders to Diet candidates considered especially friendly to the United States. Additional money was spent acquiring political intelligence that could be used against the Socialists.

Some **Socialist Diet candidates**, judged relative moderates, received funds to improve their position within the party.

As one CIA participant recalled, acquiring "assets" within the **JSP** as well as "obstructing the Japanese opposition" was "the most important thing we could do."

Although the payments were modest in comparison to the larger scope of Japanese-American financial ties, they helped buttress Kishi's fortunes in the Diet lower house election of 1958 and the upper house contest of 1959.

Payments to LDP and Socialist politicians continued for at least a decade. ²²

22. Reference to secret funding for the LDP during the 1958 election appears in an internal CIA study.

See Wayne G. Jackson, "Allen Welsh Dulles As Director of Central Intelligence, 26 February 1953-29 November 1961, Vol. III, Covert Activities," 97.

For accounts by retired intelligence personnel active in Japan, see "C.I.A. Spent Millions to Support Japanese Right in 50s and 60s," by Tim Weiner, [New York Times](#), Oct. 9, 1994; Hillsman's detailed description of the secret payments appears in interviews of Oct. 9 and Nov. 1, 1994, with Masui Shigeo, New York Bureau Chief of [The Yomiuri Shimbun](#), copies in my possession.

で、自民党は、CIAから直接もらうだけじゃなくて、例えば、経団連を迂回して、自民党の政治家にお金を贈ったり、それから、あと、自民党の派閥のボスが、個別的に、やっぱりCIAからお金をもらってた。それだけじゃなくて、社会党のメンバーも、CIAから、あの、賄賂を受け取ってた。

(0:41:03)

だから、社会党もね、自主防衛反対とかね、憲法改正反対とか言いながら、その一方では、CIAから、あの、お金を受け...取ってました。

だから、要するに、自民党もだからね、あの、社会党も結局おんなじなんですよ。

で、同じ穴の貉で、

で、で、社会党も自民党も、戦後体制、つまり、敗戦国体制ですね、アメリカの属国になった体制を変えるつもりはないんです。

で、なかったから、彼らはCIAからお金、と、...取ってたわけですね。

なかったから、自民党は、自主憲法制定と、ね、それから、自主国防とか言いながら、一度も本気にならなかったと。

ちょっとひどい言い方しますと、

自民党っていうのは、売国保守なんですね。

国を売る保守なんですね。

で、社会党ってのは何かっていうと、売国左翼と。

そうすると、日本の政治っていうのは、売国保守の自民党と、売国左翼の社会党が、表面的に対立するお芝居をやってたわけですね。

で、日本の保守マスコミ人と、左翼マスコミ人も、そのことを理解しながら、そのお芝居に参加して、それで大声で、さん、...口から泡吹いて、あの、対立しているポーズをとってて、

で、少なくとも、そ...そういうことやりながら、

保守...保守の言論人、それから保守のマスコミ、保守の新聞社、雑誌社は、CIAから補助金を受け取ってた。

だから、もう、売国保守なんですよ。

このパターンはね、1950年代から続いているわけですね。

で、これ、あの、みなさんご存知だと思いますけども、1950年代の末には、社会党の有力メンバーであった[西尾末広](#) (1891-1981) っていう人を、あの、CIAは、あの、大量に、あの、資金援助して、社会党から切り離して、

そいで、ええっと、53人の社会党のメンバーが、

民社党と、...民主社会主、主義、...民主社会党という政党を作って、これはもう完全にCIAの子会社みたいなもんでね。

有名な保守言論人が、みんな、そこに入ってって。

そいで、社会、あの、...民社党からお金もらって、...っていうことは、
日本の保守言論人も、あの、CIAからお金もらってたと。
はっきり言って、だから、あの、
左翼も、保守...保守も、政治家も、言論人も腐り切ってるわけですよ、.....ねっ。
で、腐り切ってるから、戦争に負けて77年目になっても、
自主防衛の話も出ないし、
それから国会で、核の傘は、もう、あの、機能しないから、日本は核を持つ必要があると...
いう話も出てこないわけですね。
それで、あのちょっと、僕、思い出話をしますけども.....

(~0:43:53)」

(2021/12/05 稲垣秀哉氏)

チャンネル名: くにもりチャンネル
タイトル: 【新党くにもり】12月5日 国守衆兵庫 流し&スポット街宣！後半戦(摂津本山～)
⇒
<https://www.youtube.com/watch?v=176Axy2RYZU&list=PLApqqGZRUE5pJ61E1WEJ-hPwWebd6di3D&index=107&t=2578s>
/ <https://bit.ly/3GjRiFe>

[特に、次に「」内に記す稲垣ひでや氏の街頭演説(先頭より42:58前後から、1:01:56前後までの部分)が
分かりやすいかな。]

稲垣ひでや氏のツイッター・プロフィールページ
⇒ <https://twitter.com/4EBjcmf7kBQjylz>
/ <https://bit.ly/3lvffLT>

(42:58)
「ええ～、ただ今ご紹介に預かりました、ええ、国守衆兵庫代表の、
ええと、稲垣と申します。
ええ、まあ、ええ、副代表のほうから、いろんな話がありました。
ええ、まあ、話を本当に、あの、聴いていただくために単純化して申します。
ええ、私たちがなぜくにもりという党を作って、一般庶民・一般国民であるにもかかわらず立ち上がったか
といえ、
いま日本が、中国(注: 気違い中共🇨🇳。以下同様)によって侵略されるか、
あるいは、外資に乗っ取られてですね、私たちが奴隷労働力にされるか、
この二つの運命しか私たちには残されていない。
ええ、それを悟ったからであります。

ええ、私たちは、もう一回言います。
本当に、外国勢力に、いま日本という国が乗っ取られ、...解体され破壊され、乗っ取られようとしている。
最悪の場合、来年の北京五輪(注: 2022年2月4日～2022年2月20日)が終われば、
中国は日本に対する侵略行為を、実力行使の段階に進めてくる。
もっとはっきり言えば、
尖閣諸島と、まあ、沖縄の島ですね、
...尖閣諸島や石垣島や宮古島がついに侵略されるということでもあります。
専門家がそのように言っている。
来年の北京五輪が終われば、私たちはいよいよですね、
本当の意味での侵略を受けるわけです。

もっと、間接的な侵略という意味では、もう50年以上昔から日本という国は、
ええ、侵略を受け続けてきたわけで、
そういった意味では、もうこれ、最終段階まで来ております。

永世中立国スイスの「民間防衛」という本(注: ⇒ <https://amzn.to/306tNQN>)がございしますが、
この「民間防衛」という本は、人口侵略、間接侵略工作から、自分の国を守るためのマニュアルでござい
ます。
これに日本を当てはめるとですね、
日本という国は、もう6段階中、6段階侵略の準備が終わっている国なんです。
あとは大量に移民を入れて乗っ取る、ただそれだけの状態、
6段階中、6段階目というのはですね、
日本という国が侵略されても、誰も、『それを守ろう、抵抗しよう』という意思を持たないところまで来たら、
もう、これはもう侵略は、準備が完了している、そういった状況でございます。

移民政策というのは、まさに人口侵略ですよ、.....ねっ。
自民党が2005年に、ええ、1000万人の移民計画をぶち上げた、...2005年ね。
そのためには、日本国民を貧しくして、...貧しくすることによって子どもが作れなくなって、少子化をする、
少子化して日本国民が減る、
その減った国民のところに、ねっ、外国人労働者として移民を入れる。
そういった方針を立てて、日本国民を貧しくするというをやってきたのが、

現在の自民党政権(注: 自公政権(?), 1999年～2009年・2012年～現在)なわけでありす。

自民党が『保守で、日本国民のために仕事をしてる』と思ったら大間違いですよ。
日本の自民党の政治家というのは、
いかに日本国民を騙して、日本という国を解体・破壊し、外国に侵略をさせるか、
それをコソコソとやってきたのが自民党なわけでありす。
ネットの世界では、移民党と呼ばれております。
実際に日本国民に、ねえ、10パーセントの消費税を課し、
日本国民の収入が少ない人ほど苦しくなる、ええ、消費税をどんどん増税し、10パーセントにまでした、...
上げた。
そのことによって、貧しい人ほど苦しい思いをしている。
そうやって日本国民の生活を苦しくさせて、
本当は日本の、...日本国民一人頭800万の借金があるというのは、全くの嘘であるにもかかわらず、
ねえ、これはもう、経済的にも完全に説明できることですよ。
日本国民一人頭800万の借金があるから、
ねえ、国債を発行できない、財政出動できないという嘘を散りばめて、
ねえ、日本国民が貧しくなるための政策をしているのが、
日本の財務省であり、そして日本の与党である自民党なわけでございます。

彼らは、売国奴でございます。
日本国民を、...の未来を、...子どもたちの未来を、外国勢力に売り払った。
自分たちが高い地位にいるためには、外国勢力と手を組んで国民を騙してしまったほうが、
政治に無関心で、政治のことが理解できない日本国民を騙して、ねっ、
いかに日本という国を外国勢力の言いなりにしていくか、...変えていくか、
それをやってきたのが、ええ、自民党政権でございます。

私たちは、その、えっ、成果として、いま、外国の侵略を受けようとしている。
私たちに待ち構えている運命は、先ほど申しました二つに一つであります。
●一つは、中国に侵略されて、私たちは奴隷化される、...奴隷化される。
そして、将来的に子供たち、孫たちが、もうほんとに....
ウイグルやチベットの人々が中国に虐殺されたりして、ええ、苦しい思いをしているように、
...私たち日本国民もそのようになるという、
これが最悪の運命です。
●もう一つは、外資、これには中国も含まれますが、
外資に中小企業を潰され、中小企業を乗っ取られ、
不動産を買われ、土地を奪われ、
そして、私たちの子どもたちが、奴隷労働力にされていく。

私たち日本国民が、ねえ、政治に関して無関心のまま、ねえ、これを放置し、
彼らの好き放題にさせて、
嘘を嘘と見抜かず、
嘘を、これはダメだと、糾弾することをしないでいれば、
私たちは、その二つの運命しかない。
ええ、そのように申し上げているわけでございます。

ええ、是非とも、侵略をされるということが、どんだけたいへんなことか、
日本が大東亜戦争に負けた時に、どのような目に遭ったのか、
原爆二つを落とされ、ねえ、東京大空襲では、一晩で十万人の人が殺されたわけですよ。
これ大虐殺です。
人類史上まれにみる虐殺が行われたのが、実は日本なわけです。
ねっ、もうすぐ12月8日であります。
12月8日がどのような日か、みなさんご存じですか？
まあ、真珠湾攻撃の日といわれております。
騙し打ちのジャップね、まあ、真珠湾攻撃については、いろいろ論評があります。

山本五十六(注: 1884年～1943年。⇒ <https://bit.ly/3dwQQPx> (1919年～1921年にハーバード大への留学経験あり。最終階級は元帥海軍大将))は、
世紀の愚将だったわけですね。
日本を泥、...地獄に叩き込んだ、
それが山本五十六なわけです。

ええ、しかし、もっと大きな意味でいえば、
日本という国は、あの12月8日、もうすぐ12月8日ですが、
12月8日、真珠湾を攻撃することで、大東亜戦争を開戦した。
しかしですね、みなさん、...太平洋戦争という名前を刷り込まれてるみなさんは、
あの戦争の意味を理解してない。
同日に日本は、アジアでも開戦してるわけですよ。
ねえ、太平洋だけで戦ったんじゃないんです。
日本は、アジアを解放するために戦ったわけです。
その記念すべき日が、12月8日であります。

テレビで刷り込まれてるみなさんは、この考え方、なかなか受け入れられないかもしれませんが、
日本はあの東亜戦争に、ねえ、戦う、...戦うことで何を成し遂げたのか、ねえ、
日本はあの戦争を戦うことで、ねえ、
世界中の有色人種の、...植民地化された有色人種の国が、

白人の支配から解放されたんですよ、...日本の戦いによって。
これが、ドミノ的にですね、どんどんどんどんつながってって、インドの独立につながり、
やがては、ねえ、アフリカの、ねえ、国々の独立につながってったわけです。
大東亜戦争ってのは、そういった意義がある、ねっ。

パリ会議の時に、講和会議の時に、...第一次世界大戦の講和会議の時に、
日本は、世界で初めて、「人種平等」、これを原則として訴えた。
これを、アメリカのウィルソン(注: 1856年～1924年。⇒ <https://bit.ly/3EBIBXR>)と、
ええ、イギリスの...、ええ、ちょっと名前忘れた、ええ、...ロイド・ジョージ(注: 1863年～1945年。⇒
<https://bit.ly/3ozuBHe>)だったかな、そういう首相でしたけども、
ええ、この人物ら(注: 特に、議長だったウィルソン(?))に、
『全会一致でないといけない』とかって、訳の分からないいちゃもんを付けられて、
日本の人種平等、ねっ、...人種差別撤廃の提案は蹴られたわけです。

そんな、...世界に先駆けてそんなことをした国が実際にですね、
みなさん、大東亜戦争開戦の前の世界がどうなってたかご存じですか？
世界の陸地の90何パーセントが白色人種に、植民地支配されてたんですよ。
世界の中で独立国、...有色人種の独立国は、もう日本と、当時シャムといわれてたタイしか存在しなかつた。
たった二国だったわけです。

日本は、...まあ、シャムは、実際にはですね、
ええ、フランス領インドシナと、そしてイギリス領のビルマ、これの緩衝地帯として独立を保ってたに過ぎませんから、
実質的に有色人種の独立国というのは、明治以来の近代化を独力で成し遂げてきた日本しか存在しなかった。
その日本も、ねえ、...有色人種の最後の希望である日本が、
ねえ、いよいよ、西洋白人の列強によってですね、侵略されて奴隷化される、
そういった瀬戸際に立たされた時に、
日本はいよいよ、『もうこれは戦わなければいけない』ということで立ち上がったのが、
今から、ええ、80年前、...81年前かな、ええ、81年前ですね、
81年前の...、ええ、ごめんなさい、80年前ですね。
80年前の12月8日なわけです。
大東亜戦争開戦、記念すべき開戦記念日なんですよ。
そのことによって、戦争を戦うことによって、実際に有色人種の国々が独立して植民地の時代が終わった。

そして、人種差別は悪であるという世界中の価値観、
...白人は、ねえ、有色人種の主人であり、
差別はふつうである、当然である、家畜である。
そのようにいった時代を、大転換させた。
当時高々7000万の日本人が、それだけの世界史的な偉業を成し遂げたわけであります。
12月8日はそういった日であります。

それで、その戦いによってですね、ええ、植民地を失った西洋人、...白色人ですね、白色人種たちは、
結局はこの日本が許せなかった。
だから、日本は、『お前ら、悪いことをした、悪いことをした』と刷り込まれて、ねえ、
自信を喪失させたのが、戦後行われたGHQによる、ええ、洗脳政策だった。
これをウォー・ギルト・インフォメーション・プログラム(注: ⇒ http://bit.ly/_2m1hEIk)、ええっといってですね、
これは、もう、証拠の資料もあります。
私たちは罪悪感を刷り込まれたわけですよ。
ウォー・ギルト、...ギルト・インフォメーション・プログラム、ねえ、戦争に関する罪悪感を植え付けるプログラムによって、
GHQによって、『私たちは、...戦前の日本人たち悪いことをした』と刷り込まれてしまった、ねっ。
そういったことであります。

私たちは歴史を取り戻さなければいけない。
ええ、まあ、このことに関してですね、私は、いつも、ええ、このたとえを言います。
ええ、みなさまに分かりやすいように、ジブリの、ええ、『千と千尋の物語』(注: 正しくは、千と千尋の神隠し。⇒
<https://bit.ly/304V7ic>)』という映画がありますね、...『千と千尋の物語』。
あの物語、どういった内容かと言いますと、ねえ、
千尋という、ええ、女の子が、ねえ、神隠しにあって、神の国に迷い込んで、
そこで、ええ、鷲鼻の宝石で着飾った、まあ、明らかに白色人種の魔女に、ねえ、
奴隷契約を結ばされて、...奴隷契約を結ばされて、
湯婆婆(ゆばあば)という魔女にね。
そして、名前を奪われるわけです。
千尋は、『お前は今日から、お千と名乗り』と言われて、
ええ、そうやって名乗るわけですね。

そして、千尋はどうなっていくのか？
奴隷契約を結ばされて、一生懸命働くなかで、ねえ、
自分が、ええ、名前が何であつたか、
ほんとは千尋だったのに、湯婆婆に与えられた名前お千、
これを名乗っているうちに、自分が、名前が何であつたのか忘れ、
そして、自分がいったい何者であつたのか忘れていくわけです。

そして、千尋はですね、
同じように湯婆婆に名前を奪われたハクという少年と一緒に、
自分の名前を取り戻し、
自分が何者であるのか、これを取り戻す戦いをしていくという話ですね。
このハクという少年、名前を取り戻してみれば分かるんですけども、
ええ、ニギハヤミコハ、...コハクヌシノミコトというですね、神様だったわけです。

これは非常によくできた寓話で、
私たちは、...日本国民というのは、名を奪われて、記憶を失った民なんですよ。
名を失っ、...失った、...名を奪われたというのはどういうことか？
鷲鼻の白人に名前を奪われたのはどういうことかと言えば、
私たちは、歴史的に言えば、大東亜戦争を戦ったわけですが、
それを神道令(注: 神道指令。⇒ <https://bit.ly/3ILHfYg>)というかたちで、
大東亜戦争とか、ねえ、そういった名前を使うのを禁じられて、
『これからは太平洋戦争を使え』と。
そういうふうな命令されて、
いまだにマスコミは、太平洋戦争という言葉を使っておりますが、
太平洋戦争というのは、間違った名前であります。
大東亜戦争というのが、正式な歴史的に、...せいし、...正式な名称ということになる。

つまり私たちは、名、名前、言葉、これを戦勝国に奪われて、記憶を喪失し、
私たちがいったい何者であったのかを見失ってしまった民なわけです。
だから、私たちは、名を取り戻し、過去を取り戻して、
自分たちが何者であったかを、もう一度思い起こさないといけない。
12月8日、この日はほんとに大事な日です。
先ほど申しましたように、大東亜戦争を戦った日ではありますが、ねえ、
彼らは、植民地を失った腹いせに、その報復として、
3年前の12月8日(注: 2018年12月8日)、その日に、日本政府に、恐らく、圧力をかけて、ねえ、
入国管理法改正(注: ⇒ <https://bit.ly/3ILVgyE>)を行わせた。
...通称移民法ですよ、通称移民法。
これによって、私たちはこれから、移民国家にされてしまう。
3年前の12月8日です。

大東亜戦争で、彼らの、...白色人種による有色人種の奴隷化という社会に、
私たちは、その戦いによって抵抗した。
抵抗したから、『お前ら許さない』ということで、
76年間、敗戦から経って、
私たちは、いまから3年前ですね、12月8日に、移民法というかたちで報復されたわけです。
日本という国を潰して、移民国家にしてしまう。
それをやったわけです。

私たちはそれを見て、いよいよ、私たちはもう終わりだと、...日本という国はもう終わりだと絶望して立ち
上がったのが、
このチャンネル桜を母体とする新党くにもりなわけです。
私たちはそうやって、歴史を取り戻す戦いをしている。
歴史を取り戻し、日本という国を取り戻し、私たちの生活を復活させ、
子どもたちの未来に、私たちが先人から引き継いできた、天皇陛下を中心とする和の文化、
これを子どもたちに引き継いでいくんだと、
世界で最も秩序のいい国、治安のいい国といわれる日本、これを復活させるんだと。
ほんとに私たちは最後の砦となる、...最後の抵抗である、そういった思いで、
この新党くにもりという戦いを始めました。

ええ、是非とも新党くにもりという名前覚えておいてください。
そしてできれば、私たちの戦い見ていてください。
日本を取り戻して、日本を復活させ、子どもたちの未来を明るいものにする。
先ほど言った二つの運命。
中国によって侵略されて子どもたちが奴隷化される。
そして、それが避けられた場合でも、外資に乗っ取られて、日本がね、奴隷労働力にされる。
いまここに、私の目の前に、...私たちの目の前に横たわっている二つの未来を防ぐために、ねえ、これに
抵抗し、
三つ目の子どもたちに明るい未来を切り開くために、
私たち新党くにもりは立ち上がったわけであります。

ええ、是非とも、この摂津本山、あるいは岡本のみなさん、
私たちは、これから、この兵庫でも戦っていきます。
是非とも私たちの戦いを見ていてください。

私たちは、一般、...みなさまと同じですね、一般庶民・一般国民が、
ほんとに身銭を切って手弁当で立ち上がったほんとに貧乏政党です。
しかし、いまの永田町にいる国会議員の全部の愛国心を合わせた以上の愛国心を、
私たちは持っております。
これをもって戦おうとしている。
私たちのような小さい政党を育て上げるのは、日本国民のみなさまであります。
是非とも、私たちの戦いを見ていてください。

来年の北京五輪が終われば、
中国は日本に対する侵略行為を実力行使の段階に進めてくる。
私たちはもはや、下ごしらえを終わった食材であります。
中華風の味付けがなされて、いまから火にかけて食われようとしている。
そのなかで、私たちは、私たちの生活を守るための戦いを始めたわけであります。
是非とも、私たちに力を貸してください。
私たちの生活を守りましょう。
私たちに力を与えてくだされば、あるいは、まだその暗黒の未来から、...未来を防ぐことができるかもしれない。
是非とも、子どもたちの未来のために、是非とも、新党くにもり、
名前を覚えておいて、私たちの戦いをご覧ください。
そして、できれば、私たちをほんとに、日本を取り戻す政党として育て上げてください。

ええ、摂津本山のみなさま、岡本のみなさま、ええ、是非ともよろしくお願いします。
これからもたびたび、ここを訪れると思います。
ええ、私たちの主張に耳を傾けてください。
私たちのこの活動、ライブ配信しております。
くにもりチャンネル、...くにもりチャンネルというYouTubeでライブ配信していますので、
私たちの主張を知りたい方は、ええ、是非それを、ええ、あとでも、...帰ってからでもいいのでご覧ください。
ええ、そして、ええ、私たちの母体となったチャンネル桜、ええちょっと、のぼり撤収してしまいましたけども、
YouTubeで無料でご覧いただける日本人のための、ほんとに唯一無二の放送局であります。
このチャンネル桜をご覧いただければ、私たちがいかに戦ってるかも分かる。
どういった思想に基づいて、どういった機関に基づいて戦っているのかも分かります。
ええ、是非ともチャンネル桜をご覧ください。
ええ、新党くにもりです。
ええ、ちょっとお騒がせして申し訳ございませんでした。
ええ、また話しに参りますので、ええ、是非ともよろしくお願い申し上げます。
今日のご清聴ありがとうございました。」

(1:01:56)